

◇31期生に聞く “今人生、真っ盛り”

「還暦の旅芸人～可能性への挑戦～」

北村 克晶（31期 航空）



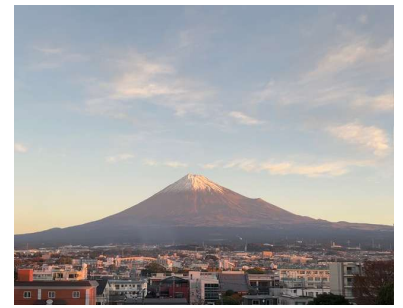
人生、90年と仮定し、30年を一区切りと考えると、還暦は最後の30年のスタート時期、余生を今までできなかったことをゆっくりと楽しむのも一つであり、別の仕事に挑戦するのも、ひとつの選択肢かと思います。茶道や武道を嗜んだ方ならご存知だとは思いますが、ラスト30年は、守・破・離の「離」の段階であり、私は、新たな知識・技術を開発できる創造者としての位置づけと思っています。挑戦したくとも体と頭はなかなかついてはいけないのが現状ですが・・・

私は、前職で、指揮官・幕僚・教官職を満喫させていただき、普通の会社勤めでは、経験することができなかったことを、沢山、させていただきました。そのことを考えると、第2の人生は、前職では経験できなかった個人の力で勝負していく環境に身を置いてみようと思い、現在の会社に、4年弱程勤務しています。弊社は、平均年齢も高く、再就職の方々がほとんど、57歳で再就職した私でさえ、「新人さん」と呼ばれ、若い部類に入っていました。もちろん、70歳過ぎても現役バリバリで仕事をしている方も何人か見かけられます。様々な方々と話し合い、組織の改善点に自ら気づいてもらい、それらを文書（報告書）にまとめるという、プロセスが、頭と体にいい影響を及ぼしているのかもしれない。

皆さんは、某トラック製造会社が試験データを改ざんし、品質不正問題を起こしたり、Aビール社がランサムウェア（データを暗号化し、解除のためには金銭が必要）による被害を被り、機能不全を起こしたりしていることは、新聞やニュースを見てご存じかと思います。そのような問題等が起きないように、製造業であれば品質の良い製品をつくり、サービス業であればお客様に喜ばれるサービスを提供し、インシデントが起きないようなマネジメントシステムが運用されているかを審査する仕事をしています。これが、「芸」の中身です。

審査員になるためには、審査員資格が必要で、例えば、品質マネジメントシステム、情報セキュリティマネジメントシステム等の講習を受け試験を受け、合格したら会社でOJTを受け、一定の力量が認められてから審査員として活動し始めました。年齢とは恐ろしいもので、若いころは記憶には自信はあったのですが、講習で教えていただいたこともすぐに忘れてしまい、「試験は大丈夫なのかな」「あと、10年若かったら」というような思いが頭を駆け巡っていました。それでも不思議と何とかなるもので、審査員資格は取得できました。

審査対象の組織は北海道から沖縄まであり、現在は、ほぼ毎週どこかの審査に行っています。「この郷土料理、どこかで食べましたか」「〇〇にはいきましたか」とよく言われますが、夜は夜で、審査準備とか報告書作成とかで時間を要しており、なかなか、そのような時間を作る余裕は今のところありません。ただ、年に1回、富士市に行くときには、宿泊場所の部屋から富士山が見えるので、朝から爽快な気分になります。沼津市に行くときも、組織に行くまでに富士山が見えます。今年は、審査期間、全てにわたり雲がない美しい富士山を見ることができ、一緒に審査に参加した審査員に「普段の行いだね」と言われ、朝から気分よく、審査に臨むことができました。



出張先でホテルから望む富士山

また、審査が終わり、帰宅する時には駅や空港で地方の名産品を手に入れ、家族で楽しめます。福岡では、「博多通りもん」「明太子」「もつ鍋セット」、大阪では、「551豚まん：新大阪ではどのお店でも行列です」、名古屋は「なごやん」「赤福」、北海道では、「魚類」「じゃがポックル」「ワイン」等です。まるで、お土産のために審査に出かけていると思われると思いますが、審査内容は「守秘義務」があり、第三者には口外できないので。

ひとつだけ、言えるのは、経営者インタビューがあり、それぞれの経営者の特徴が顕著に現れます。一つ質問すると、ものすごく熱意をもって答えていただき、「他にも聞きたいことがあるのに・・・」と時計とにらめっこすること。沢山の質問に口が重たい経営者。こちらが求めていることを誰にでもわかるように答えてくださる方。いろいろなタイプの経営者がいらっしゃいます。最初のころは、緊張していますが、今は、インタビューそのものを楽しもうという姿勢で臨むと、リーダーシップに対して学ぶところが多く、大変勉強になります。

200人規模のある経営者は、所属人員については、増やさないと言われていました。なぜかという、家族構成等を含め、掌握できるのがそのくらいの規模だからだそうです。その方は、社員一人一人の名前はもちろん、家族構成、趣味等、詳細に至るまで掌握されていました。もちろん部下からの信頼も得ていることを私でも感じることができました。私も指揮官職に就いていた時には、そのくらいの規模が限界だと感じたことがあり、一般社会でも同様のことを思われている方がいらっしゃって少しうれしい思いをしたことがありました。

今が人生の真っ盛りかどうかはわかりませんが、前職と違う分野で働くことは、新たな発見等があり、毎日が新鮮と感じています。これからは、引き続き、芸を磨いてお客様に喜ばれる旅芸人として、精進していこうと思っています。